

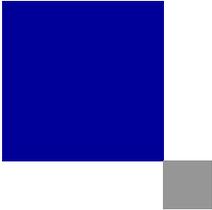
(素案見本)

海津市における グリーン・ツーリズム推進の提案



2008年 月
海津市まちづくり委員会

グリーン・ツーリズム検討分科会



はじめに

私たち、グリーン・ツーリズム検討分科会は平成19年7月に市長より委嘱を受け、14名（市民9名、市職員3名、アドバイザー2名）で発足しました。当分科会の目的は、海津市の自然、文化などを活かしてゆとりあるライフスタイルの実現と地域の活性化について検討することでした。分科会発足後、勉強会や意見交換、グループ討議など、これまで〇回開催し、海津市の基本理念「協働が生みだす 魅力あふれるまち 海津」の実現に向け、「市民が主役」であること、豊かな自然環境や生産性の高い農業など「地域性を生かす」ことを念頭に、積極的に意見を出しながらグリーン・ツーリズムプログラムを検討してまいりました。

私たちのまち海津市が、魅力ある、愛されるまちとして発展していくことができるよう強く願い、この提案書を提出いたします。

海津市まちづくり委員会
グリーン・ツーリズム検討分科会
分科会長 橋本輝男

もくじ

1. グリーン・ツーリズムと海津市	P2
2. 検討分科会の経緯	P3～P5
3. 海津市におけるグリーン・ツーリズムの展開	P6～P8
4. 今後の課題と対策	P8
5. 市に対する要望事項	P9
6. 検討分科会名簿	P10

別添 資料編

1. グリーン・ツーリズムと海津市

「物の豊かさ」から「心の豊かさ」へと価値観が移り、健康志向や環境保全意識の高まりとともに、「ゆとり」や「やすらぎ」のあるライフスタイルを求める都市住民の増加が顕著となってきています。余暇時間を利用して農村地域に滞在し、豊かな自然や美しい景観のなかで農作業体験や人々との交流を楽しみながら、ゆったりとした時を過ごしたいというニーズ、また故郷を持たない子どもの増加、農山漁村体験が子どもの情操教育に効果があると言われるなど、グリーン・ツーリズムへの潜在的な欲求が高まってきています。このような背景の中、各市町村ではこういった人々を受け入れるために、さまざまな取り組みを行っています。

海津市においては、都市近郊に位置する地理的性格や豊かな自然環境から、手軽に楽しめる、都市住民にとっての「やすらぎ空間」や「ふれあい空間」として地域が活性化する可能性は高いと思われませんが、十分に活用されているとはいえない状況です。

地域の資源を活かした事業、それらを市民のまちづくり事業として考え展開していくことは、農家経済への寄与はもとより、農業・農村に対する理解の促進、さらには消費者ニーズの把握に基づく販路の拡大など、新たなアグリビジネスの展開が期待できるのではないのでしょうか。また、農家同士、農家と商店とのネットワーク、観光資源と合わせたネットワークなど構築できれば、まちの活性化はもちろん、地域経済の活性化にもつながるのではないかと考えます。

【海津市のグリーン・ツーリズム】

市内においては、グリーン・ツーリズムを意識した活動は行われていませんが、イチゴ狩りやブルーベリー狩り、みかん狩りなどの観光農園が民間により経営されています。

【海津市の主な資源】

人的資源：ヨハネス・デ・レーケ、平田靱負翁、安田伊左衛門、

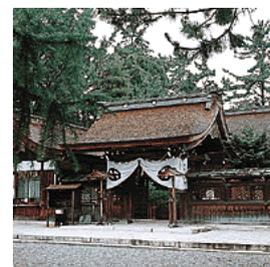
自然的資源：桜並木、彼岸花、ホタル、ハリヨ、野鳥、南濃梅園

文化的資源：古墳、マンボ、千本松原、輪中堤、今尾の左儀長、
歴史民俗資料館

歴史的資源：治水神社、行基寺、千代保稻荷神社

その他：道の駅クレール平田、木曾三川公園、海津温泉、

水晶の湯、草もち、漬物、川魚、みかん、メロン、
イチゴ、キュウリ、トマト、柿



2. 検討分科会の経緯

【第1回分科会】平成19年7月30日

▶ 杉山教授「GTについて」講話

▶ 東海農政局「東海3県の取組」の紹介、意見交換

<主な意見・キーワード>

- ・観光名称、地域資源を組み合わせて考える。
- ・いまあるものを評価して利用する。
- ・千代保稲荷神社をショーウインドーに。
- ・観光農業
- ・スローフード、食の安全性への関心
- ・海津市のオンリーワン
- ・農業の魅力を伝える



【第2回分科会】平成19年10月11日

▶ 杉山教授「高山のGTについて」講話

▶ 岐阜県農業振興課「県内のGTについて」事例紹介、意見交換

<主な意見・キーワード>

- ・高山、郡上とは違うグリーン・ツーリズム
- ・農業体験は生産者にとって負担が大きく、一般の農家では難しい
- ・グリーン・ツーリズムは、販売型→参加型→滞在型
- ・観光資源をベースに、春夏秋冬の位置付け
- ・市のPR
- ・指導できる人材の確保、育成

海津市を訪れる人がどのように巡回しているかを調べるためアンケート調査を実施し、分科会で報告しました。



<観光アンケートを実施しました>

資料編 P1～P12 参照

海津市を訪れる人の動きを知るためにアンケートを実施。千代保稲荷神社にて実施しました。

(平成19年11月10日(土))

結果の概要

- ・県外からの参拝者が8割弱。ほとんどが愛知県(全体の6割強)
- ・国営木曾三川公園、クレール平田にも立寄る人が多い。
- ・農産物を目当てにくる参拝客2割程度(目的別で2位回答。1位は参拝。)

【第3回分科会】平成19年12月12日

🔵 ワークショップの実施

海津市の農業と観光について

資料編 P13～P14 参照

抽出された事柄から海津市の農業についての課題や特徴を見つけました。



<主な意見>

- ・農地が広大で、環境もよく農業も盛んであるが、特産品（特に有名な資源）がない。
- ・集客性のある施設がある（国営木曾三川公園、千代保稲荷神社、道の駅）
- ・後継者不足の問題

<意見から導かれる課題など>

- ・広大な農地を活用したグリーン・ツーリズムの展開ができるのでは？
- ・後継者不足の不安を解消できる方法は？
- ・特産品＝海津ブランドのPR
- ・観光資源との組み立て方

【第4回分科会】平成20年3月14日

🔵 DVD鑑賞

まちむら機構制作によるグリーン・ツーリズム紹介

DVDを鑑賞

🔵 グループ討議

海津市の農業についての課題と解決案



<主な意見・キーワード>

- ・海津市において観光協会を立ち上げた。商業、農業、観光が関連して進めていくことが大切ではないか。
- ・地産地消の推進
- ・農産物の加工品を作ってはどうか。
- ・体験農業はあるが、点在しているので、ある程度集約する必要があるのではないか。また集約して体験農業をした後に、温泉、お千代保稲荷というようにルート設定をしたほうがよいのではないか。
- ・道の駅の直売所は盛況で、販売スペースの確保ができないことから新規の参加が難しい。出品したい人が商品を出せないということから、例えば軽トラックの荷台に商品載せて、荷台を販売スペースにしてしまう。そうすれば駐車場スペースだけですむ。

【第5回検討事項】平成20年5月23日

▶ グループ討議

①海津市のGT（グリーン・ツーリズム）資源は？

②市内を回遊できるルートは？

<主な意見・キーワード>

- ・四季
- ・ヘルシーフード
- ・グルメツアー
- ・簡単な食材加工
- ・歴史、文化の見直し
- ・見るだけでなく、体験できる、食べる
- ・ダイエット
- ・加工品
- ・スタンプラリー



【第6回検討事項】平成20年9月4日

▶ グループ討議

①実施方法・PR方法の検討

②総括的な検討

【第7回検討事項】平成20年 月 日

▶ 市内視察研修

海津市内で可能なプログラムを体験する

【第8回検討事項】平成20年 月 日

【第9回検討事項】平成20年 月 日

3. 海津市におけるグリーン・ツーリズムの展開（提案）

検討分科会での協議を踏まえ、海津市におけるグリーン・ツーリズムは次のとおりとします。

目的

- (1) 交流人口の増加
～ターゲットごとにメニューを組み立て、都市住民の癒しのまちにする
- (2) 地域ブランドの確立による産業振興
～生産性の高い農業地域の特性を活かし農作物を徹底ブランド化する
- (3) アグリビジネスの展開による農業者の生活安定
～新規事業への参加で収入源を拡大

実施事項

自然環境、農山村地域もしくはスローフードに興味をもち、名古屋圏に在住、在勤、在学している人を対象とした日帰り型グリーン・ツーリズムの提供を行います。

詳細内容

Aプラン

- (1) 海津まるごと探訪ツーリズム
対象者：歴史好きの40～60歳代の夫婦
- (2) 提供サービス
歴史民俗資料館を拠点施設とする。
『水との戦いコース』『文化の香りコース』を設定し、市内各所を案内します。
- (3) 料金
ガイド料金1,000円／回
- (4) サービス提供方法
歴史民俗資料館の職員や地域コンシェルジュ、NPO、民間ボランティアを活用します。
観光協会が、ガイドのコーディネーターとして窓口を担います。



Bプラン

- (1) 田舎レストラン
対象者：健康志向がある中年女性
- (2) 提供サービス
郷土料理を満喫できるコースを設定し、レストランとして料理を提供します。料理レシピを配布し、定期的に料



理講座を開催します。

(3) 料金

1,500 円～

(4) サービス提供方法

料理愛好サークル（NPO法人）などが主体となりレストランを運営します。

Cプラン

(1) 土に親しむプログラム

対象者：定年により退職し、土いじりに興味をもつ
団塊の世代

(2) 提供サービス

貸し農園、農作業体験

(3) 料金

貸し農園（20 m²）50,000 円／1 年 農作業体験 1,000 円／回～

(4) サービス提供方法

市で農園を管理し、希望者に貸出しを行います。年に 4 回程度、農業者による農作業指導（報酬 5,000 円／回）を行います。

また海津温泉、水晶の湯と業務提携し、農業講座・即売会の会場として利用させていただきます。

農地の確保・管理は、市の農林振興課が窓口となり、利用促進を図ります。



Dプラン

(1) バーチャルファーマー

対象者：こだわり野菜に興味があるが、土いじりが苦手な若い主婦

(2) 提供サービス

Web 上の畑（果樹園）で、作物のオーナーになり、収穫時期になると取れた作物が自宅に配送されます。また、自分がオーナーになっている畑の状況を写真や動画などにより観察できます。

(3) 料金

システム利用料 2,000 円／年

収穫作物代金＋配送料金

(4) サービス提供方法

システム開発は市で作成し、管理は、NPOなどの組織で行います。出品者は、商品の確保と定期的に写真、動画素材を管理者に提供します。出品者は会員手数料として売り上げの 5%を管理者に支払います。



Eプラン

(1) 軽トラ市

対象者：新鮮、安心、安価な農作物を求める、都心部の観光客
および近隣市町村の主婦



(2) 提供サービス

イベント型移動式生鮮市場。軽トラックの荷台に農作物を積み、荷台を店舗（商品陳列台）として生鮮野菜を消費者に提供します。

(3) 料金

時価

(4) サービス提供方法

観光客で賑わいがある、千代保稲荷や木曾三川公園の駐車場で開催します。また、海津ブランドのPRとして、都心部のスーパーやデパートなどと業務提携し、定期的な開催を行います。（移動式のため駐車スペースがあれば開店可能。）

4. 今後の課題と対策

● 課題

実施するにあたって、もっとも懸念されることとして「サービスの提供者不足」が考えられます。グリーン・ツーリズムは様々な形でサービスを提供することができますが、個人で行うよりは、グループごと、地域ごとなど1つの組織作りが必要になってきます。また、組織も1つよりは2つ、3つとあったほうが好ましく、それらのネットワーク化も成功のための第1段階であると考えます。

今後の課題としては、市やJA、現存する農業関連団体の全面的なバックアップが不可欠となります。今あるものを活用して取り組むことから、金銭的な部分よりもマンパワーを圧倒的に必要としますので、農業者への働きかけが重要になります。

● 対策

■ 団塊の世代を活用した『管理組織』をつくります。

まちづくりに取り組みたいが何をすればよいか分からないという人達がたくさんいます。市の積極的なPRによりグリーン・ツーリズム事業の管理団体を立ち上げてまいります。

■ 農業講座を開催します。

田舎であるから農業の講座は必要がない、と思いがちですが専門的な知識を持った人は、専業農家を除けば意外と少ないと思われれます。そこで農業講座を開催し、指導者となれる人材の育成を行います。

5. 市に対する要望事項

グリーン・ツーリズム事業の実現のため、下記のことについて海津市の支援等を検討していただきたいと思います。

(1) 人材育成講座の実施

農業者、団塊の世代、まちづくりを担いたい市民など、人材がなければ事業展開することが困難です。海津市には、グリーン・ツーリズム事業に参画できる人材を育成するため各種講座やイベントなどを積極的に行っていただきたいと思います。

(2) ネットワーク構築のための会合開催

グリーン・ツーリズムに参画できる新たなコミュニティができた場合は、ネットワークが構築できるよう意見交換会や連絡協議会などを立ち上げていただきたいと思います。

(3) 活動資金の支援

組織やネットワークの構築が進んだら、その運営(会合の開催にかかる費用など)の資金について援助をしていただきたいと思います。もしくは会議場などの借上費は減免措置をしていただきたいと思います。

(4) PR活動

海津市への集客、市全体の産業振興につながることから、全面的に広報、広告をお願いしたい。

ただし、(1)から(3)までについては、仕組みが地域に根付くまでの期間とし、おおむね5年間程度と考えます。

6. グリーン・ツーリズム検討分科会委員名簿

○委員

東海学院大学学長	杉 山 道 雄
岐阜県農業振興課 課長補佐	川 瀬 昭
公募市民	伊 藤 啓 二 郎
農業委員会代表	橋 本 輝 男
農事改良組合連合会代表	西 脇 幸 雄
営農協議会代表	芳 賀 麒 一 郎
海津市商工会	鷲 野 勝 憲
農業フォーラム21代表	山 内 徳 男
農業セミナー代表	近 藤 修 治
木曾三川ブルーベリーの里	伊 藤 辰 博
海津市4Hクラブ	近 藤 栄 希
海津市農林振興課主幹	中 島 智
海津市商工観光課係長	大 倉 光 好
海津市生涯学習課係長	森 悦 子

○事務局

企画政策課課長	木 村 元 康
企画政策課係長	後 藤 政 樹
企画政策課主任	毛 利 卓 司